ECONOMIC RESEARCH CENTER
DISCUSSION PAPER

E-Series

No.E25-4

What was Common Prosperity in Huaxi Village?

By

NAKAYA Nobuhiko

September 2025

ECONOMIC RESEARCH CENTER
GRADUATE SCHOOL OF ECONOMICS
NAGOYA UNIVERSITY

華西村の共同富裕とは何であったのか

中屋信彦*

目次

はじめに
１．華西村
２．華西村の共同富裕
３．華西村と集団所有制企業
４．華西村の発展と「破産」
おわりに
参考文献

はじめに

中国に、土地や工場、不動産といった財産の共同所有＝「集団所有」[1]を維持しながら近代化を遂げた風変わりな村が幾つか存在している。河南省の南街村や江蘇省の華西村、浙江省の花園村といった村々のことである。これらの村々は改革開放後の中国で集団農業の解体が進み、村の工場や企業の私有化が進展するなかにあって、逆にこれらの維持・発展に強くこだわり、にもかかわらず近代化を遂げ、「共に豊かに」なった。なかでも華西村は村の中心部に 72 階建ての高層ビルが聳え立ち、村人が広々とした邸宅に住んで、乗用車を乗り回す「中国一の金持ち村（天下第一村）」[2]として知られている。否、現在となっては知られていた、と言うべきかも知れない。華西村は 2023 年夏までに「破産」し、地元政府が救済に入って資産の多くが「国有化」されてしまったからである。

華西村は社会主義市場経済体制という異色の経済体制のなかで、とりわけ異色の発展を遂げた中国社会主義農村の「華」であった。周知のとおり中国は新自由主義とグローバリズムが蔓延した冷戦終結後の世界にあって政府が重要産業や大企業を大株主支配し、農地を村単位で集団所有することによって所有関係の社会主義性を大枠で維持するという独自の経済体制を構築してきた。しかし、一方では体制の生き残りをかけて生産性の向上を追求し、重要ではない中小零細企業は民営化すると同時に、集団農業は 80 年代に解体したままにし

---

* 名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター准教授

[1] 正式には「労働大衆の集団所有」という。特定の企業や村内の土地などを労働者・農民が共同で所有する中国の社会主義所有の一形態。2020 年現在、農村の集団所有制資産は土地を別にして 200 兆円程度。

[2] 初出は 2001 年 6 月に党中央組織部・宣伝部・統一戦線工作部等が結党 80 周年を記念して開催した写真展「人民の希望を背負って」とされる(『中国発展観察』雑志社調研組 2019)。

て、個々の農家に集団所有地の経営を請負わせる家族請負制度を継続してきた[3]。そうしたなかにあって華西村は農地の家族請負すら形だけのものに止め――土地は各農家に固定するが耕作は村の指示に従う「責任到戸」制――また、村の工場や企業の私有化も進めず、集団所有制の企業グループを発展させることによって共同の豊かさを追求し、中国の農村で随一の近代化を遂げるという「成果」を収めた。そういう意味で華西村は、毀誉褒貶が激しい村であったとはいえ、確かに中国社会主義農村の「華」であった。その「華」が「破産」によって「徒花」と化してしまった訳である。

改革開放後の中国で流行した「かまどを分ける」方式で豊かさを追求する発展モデルに背を向け、集団所有によって共同の豊かさを追求した華西村は、いまや時流が共同富裕に向かうなかで「破産」という悲劇的結末を迎えた。華西村の共同富裕とは一体何であったのか？華西村の発展と「破産」のメカニズムは依然多くの謎に包まれているが、現時点で入手し得る限りの情報を収集、分析することによって、その内実に迫ることにしたい。

１．華西村

華西村は江蘇省の南部、無錫市の中心部から北北東に 40km ほど離れたところにある面積 35 平方キロメートル、戸籍人口 3 万 7000 人程度（約 1 万世帯）、常住人口 5 万 5000 人程度の村である。華士鎮という町に属し、同鎮は江陰市に属しているから、華西村は江陰市にある村ということになる。

華西村は知名度の高い村であるが、現在、「華西村」という村は公式には存在しない。かつては面積 0.96 平方キロメートル、人口 1500 人程度の小さな村として存在したが、2000 年代に入って近隣の村を次々と「加入」させ、自らは「華西中心村」と称した後、2010 年 11 月に「華西新市村」に改名したからである。加入した村々は再編を経て「華西一村」から「華西十三村」に改名された。加入といっても正式に合併されたわけではない。それぞれが独立した村として存続し、村役場に相当する村民自治組織の「村民委員会」も各村で組織されている。ただ、加入に際して各村は企業を村から分離し、華西新市村（加入時は華西中心村）による経済の統一管理を受け、幹部の統一運用に従い、労働力の同一条件下での統一配置に応じ、福利の統一支給を受け、村の建設の統一計画を受入れた（「一分五統」という）。ゆえに華西村は華西新市村を司令塔として経済統合した村の連合体ということになる。

こうした経緯から華西村は村域が南北に長く、中央部が龍沙山で分断されていて南北を隧道が連絡し、さらに飛び地まで存在するという実に不思議な形をしている（図１）。華西新市村は山の南側にあり、周囲を華西一村から四村が取り囲んでいる。山の南側は基本的に工場や住宅地である。北側は近代農業を行う農業地区であり、中央部の山は世界の著名建築物のミニチュアが建ち並ぶ観光公園（「世界公園」）になっている。

---

[3]ただし、請負地の又貸しが工業化、都市化の進展とともに活発化した。このため、土地の集団所有の維持と耕作放棄対策、適度な大規模経営の育成を念頭に、2019 年から請負権（30 年更新）と使用権を分離し、使用権の出資・賃貸・譲渡を容易にした。

図１　華西村の鳥瞰図

(注)華西新市村＝旧華西村

(出所)華西龍希国際大酒店内掲示の鳥瞰図より作成

２．華西村の共同富裕

華西村は小さな村であったが、その豊かさはわが国でも関係者の間では早くから知られていた。『朝日新聞』1995 年 11 月 24 日付は「中国きっての豊かな農村」と伝え、『日本経済新聞』2002 年 4 月 13 日付も「中国で最も豊かな『天下第一村』として知られ、視察した江沢民共産党総書記（国家主席）も絶賛」などと報じている。そうした経緯から日本人の見学者も少なくなかったが[4]、その名がひろく社会に浸透したのは 2011 年 10 月のことであっ

[4] 参観の記録に熊谷重勝(2005)、谷川尚哉(2008)、同(2009)、真野俊樹(2012)などがある。

た。開村 50 周年を記念して落成させた 72 階建てビルのインパクトは大きく、わが国からもテレビ東京が取材に入り、その記録は「激動中国」シリーズの一話としてネット上に公開されている。

華西村は実際、どのように豊かなのか。

実はこのことを外部から客観的に把握することは想像以上に難しい。視覚ではよく理解できるのだが、村であるがゆえに、また、ご多聞に漏れずそれなりに脱法行為に手を染めているがゆえにデータを使った広報に積極的ではなく、「破産」という複雑な経緯や政治上の毀誉褒貶もあって正確で十分な情報が掴み難いからである。ここでは、やや古い記録ながらも 2002 年から 2003 年にかけて旧華西村（華西村の原型といえる）で本格的な社会学的調査を行った周怡（2006）に主に依拠しつつ、その後の各種取材や衛星画像、論評等を総合して実態に接近することにしよう[5]。

①華西村の邸宅

華西村の豊かさは現地で「別荘」と呼ばれる広々とした邸宅群に象徴される（図２）。周怡によれば、2003 年 10 月の調査当時、華西村の住宅地図には別荘が 426 棟記載されていた。建築年代順に整理すると、①1990 年～92 年建築の「普通別荘」が 50 棟、②1993 年～99 年建築の普通別荘が 297 棟、③2000 年建築の「欧風別荘」が 13 棟、④2001 年～2002 年建築の普通別荘が 26 棟、⑤2003 年建築の欧風別荘が 40 棟であった。床面積は何れも 400 平米程度であるが内装に相違があり、当時１割強を占めた最新の欧風別荘にはセントラル空調や紅木家具一式などが備わっていたという（周怡 2006:156-158）。

衛星画像（Google Earth）で華西村の現状を確認すると、欧風別荘または同等クラスの別荘と思われる、ゆったりとした敷地の邸宅が以前の 10 倍の 570 棟程度確認できる。うち 40 棟程度にはプールが付く。衛星画像から敷地面積を測定すると、600 平米、1200 平米、1500 平米程度のものが存在した。入居者の多くは旧華西村の四百数十世帯の村民（以下、旧村民）とみて差し支えない。欧風別荘クラスの建築の進展とともに普通別荘からの住み替えが進み、2010 年頃にはほぼ全世帯に欧風別荘クラスの別荘が行き渡ったと考えられる。

華西村には、このほか山の南側に複数の住宅街が存在し、一戸建て住宅が 3300 軒程度確認できる。欧風別荘が立ち並ぶエリアほどのゆとりは感じられないものの、総じて広めの一戸建て住宅であり、敷地面積は 300 平米程度のものが多く、400 平米程度のものも確認できる。過去の衛星画像と比較すると、2018 年以降の建築も一部確認できるが、2005 年頃までに約２割が完成し、その後、2012 年頃までに約７割が完成したようである。「空き家」になった普通別荘も含めて、入居者は新たに加入した周辺村の村民（以下、新村民）であろう。

---

[5] 周怡は、華西村を例に、集団主義を維持したまま工業化を遂げ、市場経済にも適応して Corporate capitalism に至る発展形態を「ポスト集団主義」（後集体主義、Post-Collectivism）と呼んでモデル化し、市場経済化による解体後に再結集して Corporate capitalism に至る「新集団主義」と区別して、その形成要因と内部構造を社会学的に分析した（周怡 2006:4-8）。

図２　村内の風景

華西新市村の邸宅
（筆者撮影）

華西三村の一戸建住宅
（百度地図「全景」より作成）

華西二村の集合住宅
（百度地図「全景」より作成）

重さ１トンの金製牛像
（筆者撮影）

72 階建ての華西龍希国際大酒店
（筆者撮影）

華西二村の沿道の集合住宅
（百度地図「全景」より作成）

さらに華西村には各棟５～６階建てで、幅 100 メートルほどの共同住宅が 50 棟程度確認できる。また、大通り沿いに集合住宅を連結して一階を店舗にしたような建物も延べ３キロメートルほど確認できる。『江陰日報』2005 年 2 月 15 日付は、周辺村の加入後に華西村が５～６階建て共同住宅を 1800 戸余り建設し、土地を集約したと伝えているから（建設はその後も継続した)、入居者はやや貧しい新村民や出稼ぎ労働者であると考えてよい。

②乗用車

また、乗用車の保有率の高さも華西村の豊かさの象徴であった。中国農村の自動車普及率は、『中国統計年鑑』によれば北京五輪後の 2013 年でも 9.9%に過ぎなかったが（2023 年になってようやく 40%)、中共無錫市委政策研究室（1996）は 1995 年の旧華西村の普及率を 30%と記録している。周怡は 52.3%の家庭が小型車を保有していたと記録している（周怡 2006:109)。村では 1993 年にフォルクスワーゲンのジェッダ 52 台と国産の紅旗３台を「分配」しており、その後、2001 年にはシトロエンの富康 50 台とベンツ 8 台、アウディ（A6) 8 台を購入、2003 年にはシボレーのセイル 51 台を「分配」していた（周怡 2006:187)。

③教育、年金、配給

さらに華西村は、村としては充実した「社会主義」的福利を早くから提供していたことで知られる。2009 年当時、教育は高校までが無償であり、海外留学には 10 万元（140 万円相当）の補助があった。健康診断も無料であり[6]、年金も男 55 歳、女 50 歳で年 1.2 万元から 1.6 万元 (16.8 万円から 22.4 万円相当) が支給されていた (省委省政府専題調研組 2009)。高額医療は 1996 年の時点で支払限度を超える部分は村負担であり、本人に落ち度のない労災医療は無償であった。出稼ぎ労働者であっても勤続 10 年以上であれば給与の 50～70%の年金があった（余信紅 1996)。高齢者が 80 歳、90 歳、100 歳を迎えた家庭には直系三世代の家族全員に 100 元、1000 元、1 万元の祝儀があり、1980 年代から村でテレビ・電話・エアコンの設置や、紅木家具・デジタルカメラ・ビデオカメラの配布、スーツやカシミヤシャツの支給なども行っていた (周怡 2006:187-188,213)。このほか村内の食堂や商店などで使用できるクーポン券の配布もあり（周怡 2006:107-108)、竜婧（2010）は加入した周辺村の農民にも旧華西村民と同等の年 150 キログラムの米や食用油などの配給があったと記録している[7]。年に１回の海外旅行が支給されたという情報もある（小林史憲 2014：116)。

④超高層ホテル

そして、2011 年に村の新たなランドマークになったのが 72 階建ての華西龍希国際大酒店であった。客室数 826 部屋（うち 180 室はホテル式アパート）の高級ホテルである。328 メートルという高さは、長らく華西村のシンボルタワーであった「華西金塔」(1996 年落成、

[6] 華西村は年2回の人間ドックを活用した「予防医療」を重視している(真野俊樹 2012)。
[7] 米はのちに現金支給に変更された(李春平・徐偉 2017)。

17 階建て、98 メートル）の三倍に達し、わが国の麻布台ヒルズ森 JP タワー（325 メートル）や、あべのハルカス（300 メートル）などを上回る。上部に巨大な黄金球を戴く鼎立構造は正午の太陽と団結凝集を意味し、12 階毎に三棟を連結する回遊サロンを設けて五行思想の「金、木、水、火、土」の要素を体現した荘厳を施し、60 階の金のサロンには重さ１トンの金製牛像を安置している。黄金球の内部は４層構造で、72 階が展望台、70 階が回転レストランである。レストランは２階にもある。北朝鮮から派遣されたウェイトレスを受け入れており[8]、2025 年 3 月に利用した際には給仕の合間に高麗人参エキス顆粒を販売していた。外貨獲得と交流・調査を兼ねた派遣であろう。

３．華西村と集団所有制企業

このような華西村の豊かさはどのように実現されたのか。周知の通り、私有化の時流に抗して維持した集団所有制企業を発展させることに成功したからである。中国の風変りな村は基本的に同様のスタイルで発展しているが[9]、華西村の場合は江蘇華西集団公司が特に巨大化したことが大きかった。同社は 2016 年 6 月に有限会社化され、江蘇華西集団有限公司と改称したが（以下、ともに「華西集団」）、2023 年に「破産」して「国有化」されるまで、旧華西村（現華西新市村）の村民委員会が直接・間接に 100％所有する村の企業であった[10]。そうでありながら同社は 2017 年 3 月に子会社 263 社、聯営企業 23 社、合営企業 3 社を従え、本業の鉄鋼・繊維産業のほか、観光公園や空中遊覧といった観光業、不動産開発、倉庫、海運、海洋プロジェクト建設、さらには金融などにも手を広げて多角展開したコングロマリット企業であった。傘下の繊維部門は 1999 年に村の企業として中国で初めて株式上場を果たしている。華西集団は最盛期の 2017 年には 578 億元（ほぼ１兆円）の資産を抱え、税引前当期純利益は 2004 年から 2007 年には 10 億元前後、ピーク時の 2015 年に 14.3 億元（約 265 億円）を計上していた（図３、図４）。華西村の豊かさはこの華西集団という村の集団所有制企業が生み出した潤沢な富によって実現されたものであった。

興味深いのは華西村の富の分配方法である。旧村民の場合、その豪華な邸宅や乗用車は、華西集団からの賞与や配当を村の帳簿に蓄積したポイントのような「出資金（股金）」を使って手に入れた。華西集団からの賞与は８割が村の帳簿に強制振替され、出資金に転換された。この強制出資は、習近平政権が農村の集団所有制資産の再構築を中国全土に号令した 2016 年末まで続けられている[11]。この入手方法の場合、出資金が「支払い」に充てられるた

---

[8] 2011 年 12 月に 30 人以上の北朝鮮人の受け入れを開始した（胡展奮・楊江（2013b））。

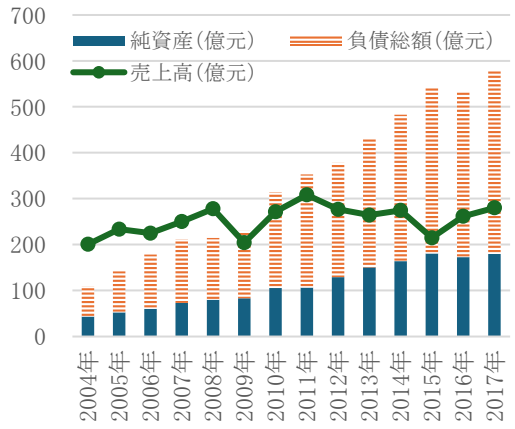
[9] 文化大革命期のモデル村であった山西省の大寨村で 2005 年 9 月に第 5 回全国「村長」論壇が開催され、代表的な 10 か村が「十大名村」に選定された。朱道才・張秀栄・董青青編著（2011）が各村の概要をまとめている。

[10] 有限会社化までは村民委員会が 100％所有した。有限会社化以降は江陰市華西社区服務中心（村民委員会 100％所有）が 0.1%所有し、村民委員会が 99.9%所有した。

[11] 2016 年 12 月 26 日に党中央委員会と国務院が連合文書「農村集団財産権制度改革を着実に推進することについての意見（関于穏歩推進農村集体産権制度改革的意見）」を発布し、2017 年から5年の計画で集団所有制資産の再編成を始めた。資産再評価を行って資本金を確定し（清産核資）、社員資格を再確認し、収益性資産を株式化して「株式合作制」を導入し、農民に権利証を交付した。現金配当が予定されたため、華西村の分配方法は政権の方針に抵触した可能性がある。

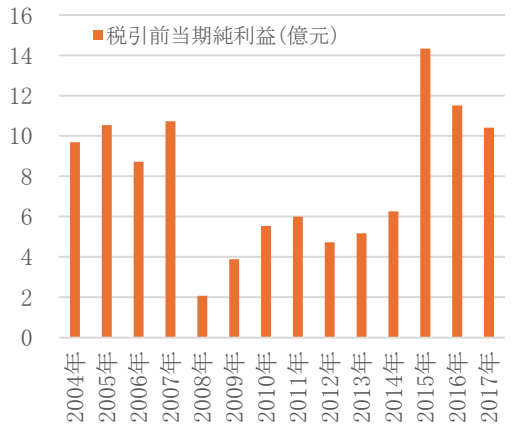
め村民に追加の支払いは不要であるが、取得できるのは邸宅の使用権だけで、所有権ではない[12]。離村時には村が邸宅を回収し、出資金も無効になった。華西村に加入したての新村民の場合は、邸宅への入居は土地集約に際しての母屋の立退料を主に充て、不足は現金や借入で補ったようである。出資金の積立が無いからであろう。出稼ぎ労働者の場合は初めから現金や借入で入手した。これらの場合の所有権については諸説あり、村の幹部は現金購入した住居については離村時に回収しないと説明しているが[13]、取得できるのはやはり使用権のみで所有権はないと証言する入居者や解説も存在する[14]。現金購入の場合は使用権だけが売買可能なのかも知れないし、村が集合住宅入居促進のために周辺村民に出資金[15]を配当（「送股」＝無償増資）した経緯もあるから、その部分が集団所有資産になるのかもしれない。何れにせよ華西村は富を生み出す企業だけではなく、不動産などの資産もまた集団所有のもとに組込み、あるいは何らかの制約下に置いているのである。

図3　華西集団の資産・負債・売上高



（出所）年報、MTN、CP目論見書、格付報告より作成

図4　華西集団の利益



（出所）年報、MTN、CP目論見書、格付報告より作成

賞与の八割を出資金で蓄積する分配とはどのようなものだったのか。華西村の豊かさと内部格差に関わる蓄積と分配の構造を確認しておこう。

---

[12] 瀋玎・孫炯（2011）は出資金を 10 回（年）分割で充当して邸宅に入居した旧村民の事例を紹介し、得たのは使用権のみで所有権はないと解説している。

[13] 村の党委員会副書記は 2013 年 3 月 20 日の記者会見で「以前は華西村を離れる場合は出資金を回収していた。集団の財産だからだ。同様に家を購入する際も出資金を使って代金を相殺し、華西村を離れる場合は回収していた。しかし、数年前から出資金で代金を相殺するとは限らなくなり、現金購入した場合は家を回収しなくなった」と説明している（胡展奮・楊江　2013a）。

[14] 2010 年1月 12 日付『21 世紀経済報道』（「天下第一村打造中国第八楼」）は、新村民は邸宅にせよ共同住宅にせよ支払いが必要であるが、取得するのは使用権のみで不動産権利証（房産証）はないと解説している。また、2013 年3月 21 日付『北京晩報』は 101 平米の集合住宅に入居した出稼ぎ労働者に取材し、購入したが所有権は無く、得たのは居住権だけであるが、邸宅に転居する際には原価で交換できるとの証言を得ている。

[15] 50 歳以下の男性村民と 40 歳以下の女性村民には毎年1万元分を3年間、高卒以上の村民には毎年2万元分を3年間、有能人材には毎年3～100 万元を分配。なお、周辺村加入後の住宅の価格は、A 式別荘が平米 3500 元、中国式別荘が 35 万元、C 式別荘が 25 万元、集合住宅が平米 650 元であった（毛徳彦編著　2005:139）。

華西村の富の分配は経路が三つ存在する（周怡 2006:147-152）。

ひとつは「社会主義的な『労働に応じた分配』」である。華西集団の給与と賞与が該当する。同社は同一労働、同一賃金を原則とするが、社内での扱いに全く差が無かったわけではない。周怡の調査によれば、村民には華西集団が基本給と賞与（基本給の３倍と企業業績連動賞与）を支給する一方で、村外労働者には傘下子会社が基本給と出来高給を支給していたという。また、村民の多くが管理職を担う一方で、村外労働者の多くが現場労働に従事していた（周怡 2006:142-146）。

二つめは「共産主義的な『戸籍による分配』」である。これは村民だけが享受できる分配である。村からのクーポン券の分配等のほか、企業利益に応じた賞与の分配があった。年間目標を超過達成した華西集団の傘下子会社は、利益の超過達成額を集団に 20%、子会社に80%の比率で分け（「二八開」）、子会社の取り分の 10%を工場長に、30%を副工場長らに、30%を村民の職員・労働者に分配し、残りの 30%を発展基金に繰り入れた（「一三三三」制）。したがって、工場長であれば利益超過額の 8%（80%×10%）が賞与として分配される仕組みである。

そして三つめが「資本主義的な『出資に応じた分配』」であった。村民限定のこの謎めいた出資は実にわかりにくいが、同社は 1993 年 12 月に資本金 1.2 億元余で設立されたあと、資本金が 90 億元になるまで村民委員会が出資を繰り返した村民委員会 100%所有（直接・間接）の企業であったから[16]、同社に対する村民の直接的な出資は存在せず、出資は直接的には村民委員会に対して行い、華西集団に対しては村民委員会を介して間接的に出資していると考えられる[17]。中国政府は 1980 年代に人民公社を解体した際に、各地で経済合作社を新設して農村の集団所有財産の管理主体とする改革を進めたが、村民委員会が代行するケースも多かった。華西村はそのパターンであろう[18]。

周怡によれば、出資には現金出資（集資入股）と上述の賞与からの振替出資（奨金入股）があり、さらに預金式の出資（存款入股）も存在したという。このうち現金出資は 1984 年に従業員ひとりあたり 2000 元が集められ[19]、また、1998 年にも同 1 万元が集められたという。前者は 3 年後に年 500 元の株式利息が支払われるようになり、後者にも年 20%の配当があったという。特徴的なのは賞与からの出資であり、華西村では 2016 年末まで賞与の現金引出しが 20%に制限され、80%は帳簿上のみの受け取りとして強制的に出資に転換されていた[20]。これには預金式の出資と同様、毎年 5%の配当が支払われたという。蓄積された

---

[16] 剰余金の資本組み入れ（26 億元）や現金（53.6 億元）、債務の資本組入れ（9.2 億元）による。なお、繊維部門の上場子会社は証券市場から資金を調達しており、その規模は IPO（2.9 億元）と転換社債（4億元）、増資（6億元）を合わせて 13 億元であった。増資のうち3億元は親会社の華西集団の引受であった。

[17] 李春平・徐偉（2017）は華西村の幹部に取材し、村民が村民委員会を介して所有する華西集団の持分は、2003 年は 10%前後で、現状 24%前後との説明を受けている。

[18] 村民員会の出資金口座の詳細がブラックボックスのため、各村民の出資金が出資の性質ごとに細かく区分管理されているのか、合算してひとりひとりの出資総額として管理されているのかについては把握できない。情報の公開を待って補充分析を行いたい。

[19] 3年分の年収に相当した（林子 2018）。

[20]2017 年から強制出資が停止され、100%現金で支給されるようになった（張卓君 2021）。

出資金は、帳簿に記帳されているだけで「自由には使えないが、たまれば、家や車と交換できる仕組み」（小林史憲 2014:115）であった。

要するに華西村は、村民の賞与から強制的に出資金を集めることによって資金を村にプールし、華西集団に対する村の追加出資の原資を確保すると同時に、村民が望む邸宅等の建設を進め、乗用車を購入し、これを個々人の出資金の累積に応じて配給し、かつ、華西集団から毎年の配当を受け取って、村民に「社会主義」的福利を提供していたわけである。これが華西村の共同富裕を巡る蓄積と分配の循環であった[21]。

問題は、この共同富裕をフルに享受し得るのが村民に限られていることである。出稼ぎ労働者など村外労働者の場合は給与水準が悪くはないとはいえ[22]、得られるのは基本給と出来高給に限られる。つまり、「華西村の集団の富の創造には参加しているが、基本的に賃金より手厚い賞与、出資配当、集団福利を享受できない」（周怡 2006:141）。その構図から言えば、出資者である村民集団に非村民が「搾取」されていることになる。このような村外労働者は、周怡が調査した際には華西集団に１万人余り存在し（周怡 2006:141）、小林史憲が取材したときには華西村に２万人存在した（小林史憲 2014:131）。村民であっても、旧村民と新村民では出資金の蓄積に差があるため格差は不可避となる。格差の正当化の根拠として過去の貢献の差を強調したとしても、「社会主義」や「共同富裕」を掲げる限りは、どうしても「三重の世界」（瀋玎・孫炯 2011）といった批判を受けることになる。ただ、こうした構造は風変わりな村に共通の特徴でもある。大家族が歴史的に支配的であった中国人にとっての共同富裕とは、直感的にはそういうものなのかも知れない。

４．華西村の発展と「破産」

では、なぜ、華西村は「破産」という悲劇的な結末を迎えるに至ったのか。その原因は一般に鉄鋼や繊維といった伝統産業の斜陽と、観光業や海運、金融、資源投資といった多角化事業の不振に求められ[23]、さらにワンマン体質や[24]、同族支配、共産党政権ゆえの独裁と責任の不在[25]、巨大建造物や村民へのバラマキなどを指摘する声もある[26]。ワンマン体質や同族支配とは、ご多聞に漏れず華西村でも呉氏の一族が村や党、企業の要職を占めていること

---

[21] なお、華西新市村村民委員会は「新農村建設」の名目で華西集団から資金を借入れていた。その残高は、2013 年 9 月末が 15.8 億元、2014 年末が 21.8 億元、2015 年末が 12.9 億元、2016 年末が 3.7 億元、2017 年 3 月末が 3.4 億元であった（華西集団、MTN、CP 目論見書）。

[22] 小林史憲は、取材した鉄鋼労働者の給料が月 5000 元であり（家族の証言）、北京の大卒初任給（3000 元程度）や広東省の工場労働者の給料（1500～3500 元）を上回るなど、待遇がよいことに驚いている（小林史憲 2014:128）。一方、周怡は、出稼ぎ労働者が華西村を選んだ理由に関して、近隣の私営企業と給与水準に違いはないが、華西村は賃金が安定し、保障され、欠配が無いから等の証言を得ている（周怡 2006:207 頁）。

[23] 『日経産業新聞』2021 年3月 29 日付、『日本経済新聞』2023 年 8 月 3 日付、『日経ヴェリタス』2024 年3月 17 日号、『FRIDAY』2023 年 8 月 18･25 日号など。

[24] TBS NEWS DIG（newsdig.tbs.co.jp）2023 年 8 月 11 日配信ニュース「『中国一の金持ち村』が破綻　負債は 8 兆円　村営企業は 20 円で売却 “成功モデル”が崩壊」。

[25] 『日経産業新聞』2021 年3月 29 日付。

[26] 『FRIDAY』2023 年 8 月 18･25 日号。

を指すが[27]、斜陽や不振とはどういうことなのか。それを分析するには華西集団の財務情報が不可欠であるが、現在のところ外部から入手し得る情報は企業債やミディアムタームノート（MTN）、コマーシャルペーパー（CP）など資金調達関連で開示されていた 2004 年～2018 年秋のものに限られ、最期の五年間については残念ながらブラックボックスである[28]。それゆえ以下では華西集団の発展史を振り返ることで「破産」の原因に接近することにしよう。

（１）華西集団の起源

華西集団は 1987 年に江陰県華西工業供銷公司の名称で設立された。江陰市華西農工商実業公司（1989 年）、江蘇華西実業総公司（1992 年）を経て、社会主義市場経済移行決定後の 1993 年 12 月にグループ企業の江蘇華西集団公司として編成されている。ただ、ルーツの農村工業となると文化大革命期にまで遡る。村の党支部書記であった呉仁宝が 1969 年に 20 名の村民を動員して密かに開設した小さな金属加工場がその起源であった。農村発展には工業が不可欠（無工不富）という考えから、暗幕で遮光してタップやダイスなどのネジ加工用の工具を生産する「地下工場」を設け、近隣の農村にも販売して資金を蓄積していたようである[29]。

その一方で、華西村は集団労働に勤しむ政治的に模範的な村でもあった。同村は雑姓村（比較的多いのは呉姓と趙姓）であって、厚みのある「宗族」の基盤は欠いていたものの（周怡 2006:82）、村人は良く団結し、勤勉であったようである[30]。1964 年に始まった「農業は大寨に学ぶ」運動に感化されて田畑の整地や用水路の整備に熱心に取り組み、「高収量・安定生産水田」の建設を目指す村の 15 年計画（1964 年～）を 8 年で達成していた（中共無錫市委政策研究室 1996）。そうした成果が認められ、1975 年 9 月 5 日には「『農業は大寨に学ぶ』先進集団」として『人民日報』に紹介されている。

こうして政治的に正しくも抜け目がないリーダーの存在と、加工技術や資金の密かな蓄積、村人の団結と勤勉性、さらには村名が持つ政治ブランドがその後の村の発展に有利に作用したようである[31]。改革開放直前の 1978 年 12 月 6 日には、一転して集団所有制の農村工業に依拠して豊かになったことが高く評価され、『人民日報』一面に「農民はこのような社

---

[27] 胡展奮・楊江（2013a）が家系図を整理し、一族の役職を詳しく分析している。

[28] 上場子会社については入手可能。なお、中国企業聯合会・中国企業家協会編の『中国 500 強企業発展報告』は 2018 年以降も同社の資産、売上高、所有者持分、純利益、従業員数を掲載している。それによると同社は 2020 年に赤字に転落し、2023 年まで4年連続で赤字を計上していた（各年の赤字額は 2.1 億元、4.2 億元、11.9 億元、14 億元）。『報告』は各社からの申告に依拠しているが、2017 年以前の掲載値は目論見書や年報の数値と大幅に異なる（例えば 2017 年の売上高は 280 億元に対して 475 億元）。連結処理の方法に違いがあるのかもしれない。

[29] 現地の「社会主義富華西展覧館」は金属加工工場の原寸大模型を「地下工場」と題して展示しているが、食品工場説も複数存在している（莫邦富（2017）、細沼藹芳（2013）など）。

[30] 呉仁宝によると、1961 年以来の 34 年間の「一般大衆」の平均労働時間は 9.4 時間で日曜は無く、祝日も忘れて 47 年分の労働を行った。主要幹部に至っては毎日少なくとも 12 時間の労働時間で、34 年で 57 年分の労働を行った（江陰市人民政府接待站 1995:5）。

[31] なお、華西村が 80 年代初頭に家族請負に積極的でなかった理由について周怡は、①農業従事者が少なく土地も狭かったことや、②工業で培った組織性が村に備わっていたこと、③集団労働の記憶や政治的名誉心などを指摘している（周怡 2006:115-120）。

会主義を愛す」という題で紹介された。そして、1978 年に改革開放政策が始まると華西村は農薬噴霧器（1983 年）やフランジ（1985 年）、針金（1986 年）などの工場を相次いで開設し[32]、さらに「稼ぎは上海に依拠せよ。活性化のために連携せよ」という方針を掲げ、1985 年に上海銅廠と銅加工場を立ち上げたほか、1986 年に上海鋼鉄一廠と冷延帯鋼工場を、1988 年に上海アルミ製品一廠とアルミ製品工場を立ち上げている（中共無錫市委政策研究室 1996）。他にも綿紡織や金網生産、化学肥料生産の工場を立ち上げた。これらをグループ化し、傘下 40 社程度でスタートしたのが華西集団であった。

（２）華西集団の飛躍と旋回

1993 年以降の華西集団の発展の歴史は、①村外から労働者を多用して村民の共同富裕を追求した 1999 年までと、②株式上場や銑鋼一貫製鉄への参入によって事業を急拡大させ、村域を拡張した 1999 年から 2006 年まで、③鉄鋼業発展の壁に直面して経営の多角化を加速した 2007 年から 2013 年まで、④特に金融に活路を見出そうとした 2013 年から 2020 年までに区分できる[33]。

①村外労働者の労働と華西村民の共同富裕（1993 年～99 年）

1993 年にスタートした華西集団が最初に事業の中核に据えたのは鋼材圧延と毛紡織・アパレル生産であった。8 月に江陰博豊鋼鉄有限公司を設立したほか、12 月には既存の毛紡織工場を有限会社化して江陰市華西精毛紡有限責任公司を設立している（1996 年 1 月に発電所を追加出資し、江陰市華西実業有限責任公司と改称）。このとき華西集団は、国有の上海第二鋼鉄から中古の線材設備を廉価で入手する幸運に恵まれた。国家プロジェクトの楊浦大橋建設に伴う工場移転で廃棄された中古設備であったが、これが「華西村の集団所有制工業の本当の意味での大発展のシンボル」となった（周怡 2006:112,126）。リーダーの抜け目のなさと政治ブランドの賜物であろう。

同時に華西集団は村外からの労働力に大きく依存するようになる。1990 年の華西村の労働力は村民 734 名に対して村外労働者 286 名であったが、2000 年には村民 1123 名に対して村外労働者が 6 倍の 6415 名になった（周怡 2006:123）。邸宅の建設が続々と始まったのはこの時代からである。1993 年から 99 年の間に 297 棟の別荘が建築された。17 階建ての華西金塔が落成したのも 1996 年であった。

②村域の拡張と華西集団の拡大路線（1999 年～2006 年）

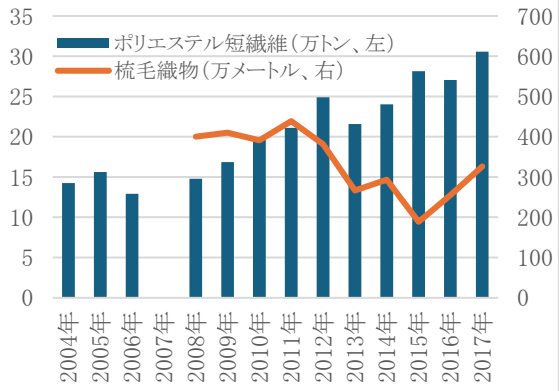
こうして拡大を続けた華西集団は、1999 年に急激な拡大路線に転じる。

まず、毛紡織・アパレル部門を 1999 年 5 月に株式会社化して江蘇華西村股份有限公司を

[32]『証券時報』2011 年 12 月 8 日付「50 年磨一剣　解構華西村産業転型路径」。
[33] 2017 年からの集団所有制資産改革が華西村の富の分配と蓄積に影響を与えた可能性があるが、現時点では断定できるだけの証拠はない。

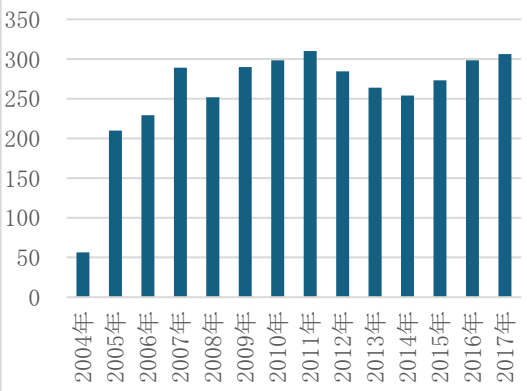
設立し、同年 7 月に 1 株 8.3 元で 3500 万株を発行して 2.9 億元を調達、深圳証券取引所に上場した。調達した資金は先進的な梳毛紡績設備や梳毛織物織機の導入などに充てている。また、2003 年には転換社債で 4 億元を調達し、機能性繊維の技術改造や新型包装材料（PET 樹脂）生産、ポリエステル短繊維生産、PBT 樹脂生産、不織布の技術改造などに投入して、化繊事業を強化した（図５）。

図5 繊維部門主要製品生産量



（出所）同社MTN、CP目論見書、格付報告より作成

図6 粗鋼生産量（万トン）



（出所）同社MTN、CP目論見書、格付報告より作成

また、鉄鋼部門はそれまでの鋼材圧延から飛躍して 2002 年に銑鋼一貫製鉄に乗り出した。折からの鉄鋼ブームに乗って村内に 1 カ所と、鉱物資源が豊富な北方 900km の河北省唐山市灤南県内に 1 カ所の計 2 カ所に銑鋼一貫製鉄所を同時に建設している。製鉄所とは言っても村内の「南鋼」は 450 立米高炉が 2 基であり、河北省の「北鋼」（灤南華瑞鋼鉄有限公司）も 450 立米と 210 立米高炉が各 2 基という小型設備で、粗鋼生産量は最盛期の 2011 年でも合計 310 万トンであった（図６）。ただ、小規模ながらも銑鋼一貫製鉄であり、冷延帯鋼や平鋼、中幅帯鋼といった比較的付加価値の高い鋼材を生産していた[34]。しかも所有者は村である。興味深いのは「南鋼」の法人登記であった。製銑や製鋼は工程別に江陰華西製鉄有限公司（高炉）や江陰華西鋼鉄有限公司（転炉）などを米ドル資本金で設立しており（外資 25%）、鋼材圧延は品種ごとに江陰市華西高速線材廠（線材、2002 年）や江陰市華西彩鍍鋼板有限公司（カラーメッキ鋼板、2003 年）、江陰市華西不銹鋼有限公司（ステンレス、2005 年）を立ち上げていた。国内資本でありながら合弁を装って外資優遇税制に便乗し、かつ小規模投資を装って設備投資審査を地元でクリアする典型的な脱法行為である。ここでも抜け目がない「地下工場」の伝統が感じられる。

[34]「2009 年江蘇華西集団公司公司債券跟蹤評級報告」2012 年 8 月 13 日。

表1　華西村の構成村と人口・世帯数推移

	旧村名（加入年）	人口						世帯数		
		2003 年	2004 年	2006 年	2019 年	2020 年	2023 年	2006 年	2020 年	2023 年
華西新市村	華西村	1,671	1,685	1,718	1,695	5,629	1,520	438	1,832	487
華西一村	華明村、前進村（2001） 西巷村（2002）	4,233	4,257	4,308	4,382	8,115	4,164	1,252	1,932	1,196
華西二村	三余巷村（2001） 瓠岱村、陳塘村（2002）	2,612	3,572	3,615	3,620	6,772	3,449	1,064	2,103	995
華西三村	涇浜村、北繆家村（2002）	2,969	3,004	3,034	3,111	4,824	2,942	866	1,736	815
華西四村	水池巷村（2003）	1,746	1,748	1,785	1,828	2,924	1,747	531	802	499
華西五村	朱蔣巷村（2002）	2,569	2,596	2,629	2,681	2,664	2,568	730	710	711
華西六村	砂山村（2004）		2,269	2,307	2,350	2,344	2,266	667	698	652
華西七村	龔巷村（2004）		2,201	2,239	2,313	2,314	2,232	622	653	615
華西八村	江南村（2004）		2,729	2,760	2,952	2,951	2,783	804	820	810
華西九村	彭蒿村（2004）		1,810	1,822	1,868	1,867	1,833	521	520	510
華西十村	蔡化村（2006）			2,426	2,595	2,640	2,580	671	699	668
華西十一村	蔡河村（2004）		2,880	2,972	3,158	4,821	3,220	845	1,219	877
華西十二村	陸北村（2004）		2,035	2,104	2,089	4,187	2,033	550	1,053	561
華西十三村	陸西村（2006）			3,366	3,384	3,379	3,264	982	998	938
計		15,800	30,786	37,085	38,026	55,431	36,601	10,543	15,775	10,334

（注）2020 年は人口センサス（含、出稼労働者）の人口、世帯数と思われる

（出所）『江陰年鑑』（各年版）、毛徳彦編著（2005）65 頁より作成

華西村が周辺の村々を加入させたのは、まさにこの時期であった。2001 年 6 月に華明村、前進村、三余巷村の３か村を加入させ[35]、その後、2003 年 1 月にかけて西巷村など７か村を加入させて、山の南側に華西一村から五村を編成している。また、2004 年には山の北側を中心に砂山村など６か村を加入させ、華西六村から九村と華西十一、十二村を編成した。そして、2006 年に蔡化村と陸西村を加入させ、華西十村と十三村としている[36]。これら周辺村の加入によって元々1600 人程度であった華西村の人口は、2006 年には 3 万 7085 人へと急増した（表１）。華西村は狭隘な村域を突破して広大な事業用地を確保したが、「一分五統」の加入条件によってそれまでの数倍規模の「共同富裕」を長期的に提供する使命を負うことになった[37]。

[35] これら3か村や泾浜村は従来から融資や投資、財政援助、雇用支援などの面で華西村の支援を受けていた（毛徳彦編著 2005:67-79,83-88）。

[36] 地元政府による行政区画再編の噂を聞き、村民が加入を求めて華西村に押し掛けた村も存在する（『経理日報』2002 年 8 月 24 日付「“天下第一村”複制財富――呉仁宝策劃華西村“一分五統”奇跡」）。

[37] 『江陰年鑑』2003 年版は、「華西村は周辺村の経済、土地、人材などの各種資源の配置・組み合わせを最適化し、土地の収益最大化と人材の役割発揮最大化を実現した。村民の福祉に関しては、華西村は共産主義の『必要に応じた分配』と社会主義初級段階の『労働に応じた分配』を堅持しており、周辺村民の日常生活に必要な米、野菜、油、塩などは華西村が統一して保障し、高齢者には年金を支給し、さらに 5 年間で 1400 棟の農民別荘の建設を計画しており、総投資額は 7,250 万元に上る」（323 頁）と記録している。

③鉄鋼発展の壁と経営多角化（2007 年～13 年）

ただ、その直後から華西村には暗雲が漂い始める。各地に小型製鉄所が乱立するという異常事態を受け、産業高度化の遅れや鋼材の過剰生産、環境汚染に危機感を深めた政府が、民営製鉄所の脱法建設の取締りや、華西村クラスの小型設備の制限・淘汰に乗り出したからである。2004 年に建設中の大手民営製鉄所を解体した後（鉄本事件）、2005 年 7 月に「鉄鋼産業発展政策」を発して新設高炉を 1000 立米以上に限定し、既存設備についても 300 立米以下を淘汰する方針を打ち出した。そして 2006 年 6 月に、2007 年期限の 200 立米以下の淘汰と 2010 年期限の 300 立米以下の淘汰を通知している。2010 年 2 月には基準をさらに引き上げ、2011 年期限で 400 立米以下の淘汰を通知した。華西集団は「北鋼」が環境汚染もあって 2007 年に永久停止命令を受けている。現地の大手国有企業から 10%の出資を受け入れ、唐鋼集団華西鋼鉄有限公司と改称して当座の危機を乗り切ったが、2010 年から 2011 年にかけて 588 立米高炉への置き換えを余儀なくされた。さらに 2008 年の世界金融危機によって鋼材価格が崩落し、政府のインフラ投資によって 2011 年頃までは価格が持ち直したものの、その後は 2016 年まで長期の値下がりが続き、鉄鋼部門は 2012 年と 2015 年に粗利レベルで赤字に陥るに至った（表２）。

表2　部門別粗利率の推移（%）

	集団	鉄鋼	紡織化繊	素材	商社	その他				
							不動産	金融	観光	倉庫
2010 年	5.55	1.38	12.60	2.78	6.69	37.17	32.27	62.64	40.19	78.33
2011 年	4.25	2.32	6.09	4.00	7.01	42.76	43.02	54.86	42.49	77.14
2012 年	4.56	−0.22	3.76	6.82	2.94	50.75	44.10	81.87	49.22	71.97
2013 年	5.22	0.95	1.38	9.86	3.15	54.43	41.55	88.88	58.22	66.07
2014 年	6.73	2.23	4.78	9.61	3.87	40.62	17.19	86.69	48.33	59.90
2015 年	5.99	−0.96	5.77	5.68	4.13	31.52	5.52	78.36	59.07	63.14
2016 年	9.12	4.20	8.25	5.42	3.79	33.42	6.82	55.90	47.98	59.94
2017 年	10.50	8.10	8.50	6.35	4.61	25.00	17.60	74.37	48.94	61.26

（出所）同社 MTN、CP 目論見書、格付報告より作成

こうした事態を受け、2003 年に村と華西集団のトップを継承していた呉協恩（呉仁宝の四男[38]）は、就任直後の 2004 年に既に策定していた経営の多角化計画を一気に加速させている[39]。2007 年 8 月に 72 階建てビルの建設に着手したほか、資源商社の宝立国際（香港）貿

[38] 同氏は 11 歳の時、水難事故で子を亡くして失意に沈む村民宅に無理やり養子に出され、23 歳でその婿養子となった（『中国発展観察』雑志社調研組 2019）。

[39] 産業転換は余力のあるうちにという観点から、鉄鋼が好調であった 2004 年に老朽工場の閉鎖を決定し、鉄鋼業の不拡張と多角化の方針を固めていた（『中国冶金報』2015 年 6 月 11 日付「華西鋼鉄的昨天、今天、明天」）。なお、同年は前述の「鉄本事件」の年でもある。

易有限公司を 2009 年 8 月に設立し、金融危機で安値放出された貨物船５隻を買い入れて海運子会社を編成した[40]。また、2009 年 5 月と 2010 年 10 月には大規模マンション開発を行う不動産会社を相次いで設立し（江蘇華都置業有限公司、江蘇東宝置業有限公司）、2010 年 3 月には海洋土木の江蘇華西村海洋工程服務有限公司を、2011 年 7 月にはヘリコプター観光遊覧の江蘇華西通用航空有限公司を[41]、同年 8 月には農村小口金融の江陰市華西農村小額貸款有限公司を設立している。2009 年には 20 億元の社債を発行して山の北側の近代農業エリア化や、綿花を主体とした備蓄・物流の近代化、周辺村の私営企業の立地を集約する工業団地の整備などを企画した。金融・投資部門も強化し[42]、2009 年 9 月に集団内の金融業務を集中処理する財務有限公司を立ち上げたほか（既存の中山集団財務有限責任公司を買収）、2010 年 10 月から 2012 年１月にかけて投資会社の江蘇華西同誠投資控股集団有限公司の資本金を 2 億元から 10 億元に増強している。こうして 2007 年末に 62 社であった支配子会社数は 2013 年 9 月には 124 社にまで増加した。

④金融への依存（2013 年～20 年）

経営の多角化は本業以外の利益を増大させたものの、本業の斜陽をカバーするには馬力不足であった模様である（図７、表３）。総資産が 2007 年から 2013 年にかけて２倍に拡大するなか、税引前利益は 2007 年に計上した 10.7 億元を超えることがなく、2013 年に至るまで 2.1 億元～６億元の間を推移した。

そして華西集団は高収益が見込める金融・投資分野への依存を深める。投資会社の江蘇華西同誠投資控股集団有限公司の資本金を 2013 年 9 月に３倍（30 億元）に増強し、資本金で村最大の事業にした。また、エネルギー関連投資の江蘇華西新能源投資発展有限公司を 2015 年 3 月に資本金 5 億元（払込３億元）で設立し、2015 年 8 月から 2016 年 9 月にかけては一時的にリース会社の華中融資租賃有限公司（資本金 1.54 億ドル）を傘下に収めた[43]。そして 2015 年９月には繊維部門の上場子会社の定款を改訂し、本来業務にベンチャー投資ファンドや株式投資ファンドの管理、M&A ファンドの管理などを加えている。同社はその直前の７月に 6 億元の支配株主・第三者割当増資を行い、同時期に上海の浦東新区に資本金５億元で投資会社の一村資本有限公司を設立していた。2016 年と 2017 年には計 12 億元の社債と 11.39 億元の転換社債を発行し、同時期に 5 億元と 10 億元を追加して一村投資有限公司の

---

[40] 船団は 2017 年までに 10 隻になった（李春平・徐偉 2017）。

[41] 但し、「世界公園」の米連邦議会や仏凱旋門、独アインシュタイン塔などは 1995 年には既に存在していた（江陰市人民政府接待站 1995:4）。

[42] 呉仁宝は金融のような見ることも触ることも出来ないものを信じなかったため、呉協恩が跡を継いで人材を集めて金融に進出した際は父に「内緒」で進めたという。年末に帳簿をひろげて見せたところ、呉仁宝は金融の収益能力に驚き、一転して金融への進出に賛同したという（胡展奮・楊江(2013b)）。

[43] 7.15 億元を投じて親会社の中盈投資有限公司を過半数支配下に置き、7.46 億元で売却した（「2015 年年度報告」、「2016 年年度報告」、「2017 年度第一期超短期融券募集説明書」）。この間、第2位の出資者が傘下上場会社を介して親会社の完全買収を計画したが、当局に阻止された。ちなみに第3位の大株主は中植グループ傘下の投資事業有限責任組合で、同グループは巨大シャドーバンクとして名を馳せ、後に不動産バブルで破綻した。

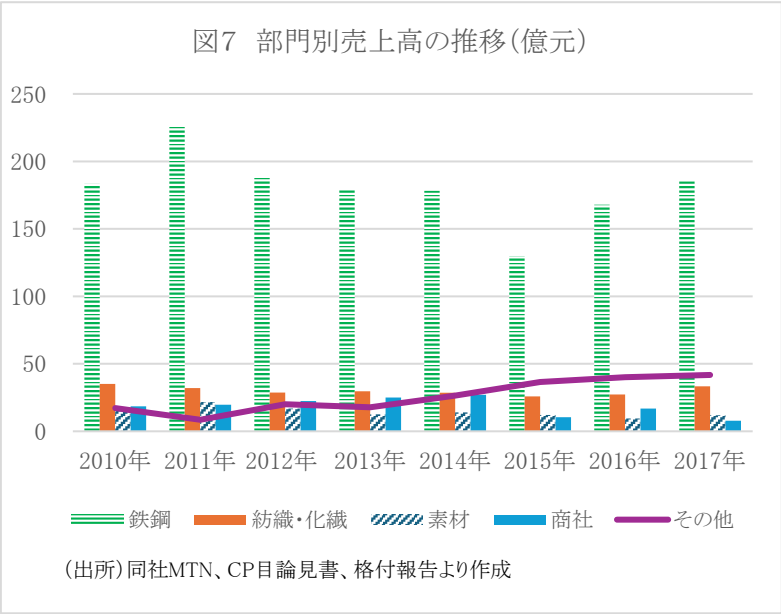


表3　部門別粗利の推移(億元)

	集団	鉄鋼	紡織化繊	素材	商社	その他		
							不動産	金融
2010 年	15.07	2.53	4.42	0.48	1.24	6.4		
2011 年	13.11	5.25	1.95	0.87	1.38	3.66	0.37	1.12
2012 年	12.62	−0.42	1.08	1.15	0.66	10.15	4.04	3.64
2013 年	13.80	1.71	0.41	1.24	0.79	9.65	1.47	3.77
2014 年	18.46	3.98	1.37	1.35	1.04	10.72	1.69	3.66
2015 年	12.87	−1.24	1.49	0.69	0.43	11.50	1.04	4.40
2016 年	23.84	7.06	2.25	0.51	0.64	13.39	0.89	9.09
2017 年	29.40	15.02	2.83	0.75	0.36	10.44	4.23	2.35

(出所)同社 MTN、CP 目論見書、格付報告より作成

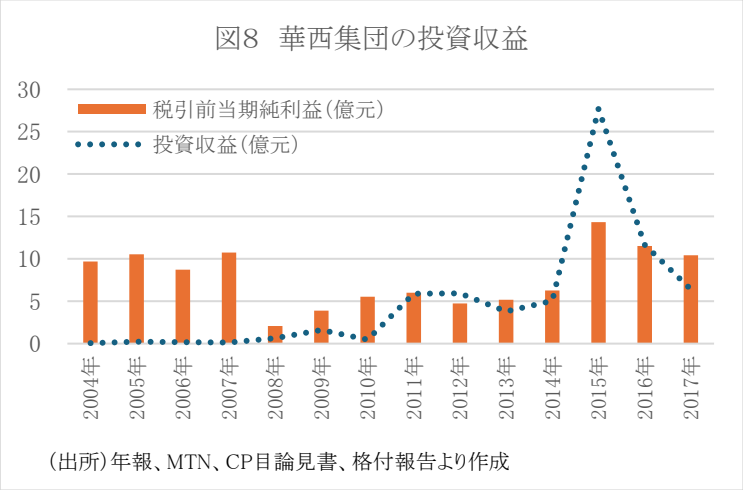
資本金を 20 億元に増強している。華西集団は、これまでも、上場子会社との間でアパレル工場と倉庫・港湾・変電所資産の交換（2005 年）や梳毛織物工場・発電所と東海証券株の交換（2009 年）を行って、実業子会社の実質的な投資会社化を進めて来たが、愈々それを加速したわけである。こうして華西集団は、鉄鋼や繊維といった伝統的な製造部門に８割以上の労働者を抱えながらも（表４）、鋼材価格が急回復した 2017 年は別として、利益のほとんどを投資で稼ぐ企業に変貌することになった（図８）[44]。

[44] 呉協恩は『民生周刊』記者の取材に対し、村民の就業問題を考えて伝統工業を 50%保留していると回答している(張素珍　2013)。

表4　華西集団の従業員数推移

	生産	技術	業務	管理	合計
2013 年 9 月末	15,025	2,571	814	2,095	20,505
2015 年 6 月末	14,970	2,572	815	2,098	20,455
2017 年 3 月末	14,699	2,572	808	2,101	20,180

（出所）同社 MTN、CP 目論見書より作成



2018 年後半以降の華西集団には謎が多い。2013 年から頻繁に発行してきた MTN や CP が 2017 年 11 月発行の超短期 CP（270 日）を最後に発行されなくなり、財務がブラックボックス化したからである[45]。この時期、「北鋼」では鉄鋼業の起死回生を図る動きもあったが、志半ばで悲劇的な結末を迎えるその計画については外部から知る由も無かった。

（３）華西集団の「解体」

そんな華西集団を巡る状況が俄かに騒がしくなったのは 2021 年 2 月のことであった。華西村で取付け騒ぎが発生したという情報が世界を駆け巡った。数年前に華西村が周辺の村々に案内を貼り出して村民に手持ち資金を「華西金塔」（つまり村）に預けることを呼びかけ、三年以上の「定期預金」（定期存款）の利率が銀行の４％前後に対して 10～15％などと好条件であったために、江陰市だけでなく上海市や黒龍江省からも預金者が訪れていたが、突然条件を変更したために人々が償還を求めて押しかけたという[46]。３年期限で３割配

[45] 2013 年の発行は 10 億元の MTN（5年）が1回、2014 年は 10 億元の MTN（3年）が1回と計 25 億元の短期 CP が2回、2015 年は 5 億元の MTN（3年）が1回と計 18 億元の短期 CP が2回、2016 年は 5 億元の MTN（3年）が1回と 7 億元の短期 CP が1回、5億元の超短期 CP が1回、2017 年は計 18 億元の超短期 CP が4回。

[46]「華西村――一場中国共産主義実験的破滅」『BBC　NEWS 中文』（www.bbc.com/zhongwen/）2021 年 3 月 30 日掲載。

当を約束した 2018 年 3 月付「出資」（入股）は 0.5%配当に変更され、別期限で１割配当のものも 5%配当への変更を経て 0.5%配当に変更になったという証言もある[47]。「出資証」には華西集団の旧社名を印字した用紙が使用されていたようであるが、村民委員会を介した預金式の出資（存款入股）なのか、華西集団が直接個人から借り入れたのかは定かではない。ただ、何れにせよ 2018 年と言えば華西集団の CP の発行が途絶えた時期であった。

その２年後、今度は華西村が破産したという衝撃のニュースが世界を駆け巡った。わが国でも『日本経済新聞』2023 年 8 月 3 日付が、「実力を無視して膨らませた債務」を抱えた華西集団が資産価値を失い、江陰市政府が株式の 80%を１元で取得して救済に入ったと伝えている。TBS NEWS DIG も 2023 年 8 月 11 日に「『中国一の金持ち村』が破綻　負債は 8 兆円 村営企業は 20 円で売却　『成功モデル』が崩壊」と報じた。

華西集団はどのように解体されたのだろうか。

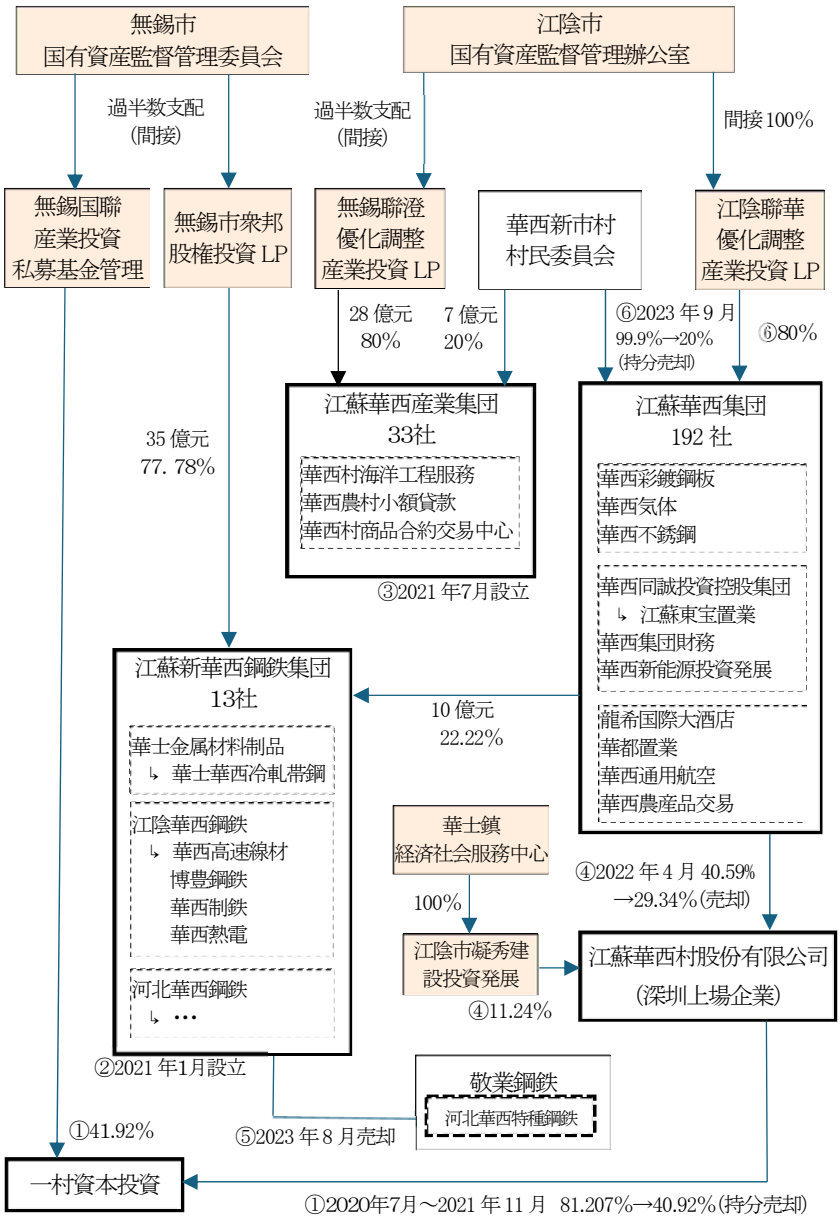
華西集団の解体は、実際には取り付け騒ぎの直前から始まっていた（図９）。その半年以上前の 2020 年 7 月に、「投資する繊維会社」に変質していた上場子会社の江蘇華西村股份有限公司が、傘下の投資会社の持ち分を国有ファンドに切り売りするという奇妙な行動に出ていたからである。同社は 2015 年に一村資本有限公司を設立し、資本注入を重ねて当時 81.21%の持ち分を有していたが、そのうち 34.431%分を無錫市系国有ファンドに 9.98 億元で譲渡していた。混合所有制推進の国策に沿って国有ファンドからの出資を受入れ、投資会社の混合所有制化（集団＋国有）を進めたのではない。そうではなく、持ち分の売却であった。譲渡目的は示されていないが、前月の６月に光半導体企業のソース・フォトニクス社を 9.68 億元の投資で過半数支配（16.35%→54.68%）した経緯があるから、そのための金策（支払は翌年）であったと考えられる。さらに同社は 2021 年 11 月にも一村資本有限公司の持分 7.493%を 2.17 億元で追加譲渡している。これは 2021 年 8 月に満期を迎えた 2017 年発行の 11.39 億元の転換社債が全額償還を余儀なくされたことの穴埋めであろう。転換社債の担保に差し入れていた江蘇銀行株も大量処分していた。

次に進められたのが、鉄鋼・金属加工部門の売却であった。これも取付け騒ぎ直前の 2021 年 1 月に着手している。無錫市系の別の国有ファンド傘下の投資事業有限責任組合が現金で 35 億元（77.78%）を出資し、華西集団が現金で 10 億元（22.22%）を出資して新会社の江蘇新華西鋼鉄集団有限公司を設立し、華西集団から主要な鉄鋼・金属加工企業を順次切り離して移管し、「国有化」している。そして 2023 年 8 月には「北鋼」の河北華西特種鋼鉄有限公司を現地大手民営製鉄の敬業鋼鉄有限公司に売却した。同社は「北鋼」の移転を条件に、2019 年 3 月から沿海部の「海港経済開発区」に建設を許可されていた製鉄所で、2300 立米高炉と 170 トン転炉などの比較的大型の設備を備えていた。鉄鋼部門の起死回生を図る移転であったと思われるが、2021 年 9 月に連続鋳造工程までの設備を完成させながら、工事代金の未払い（9.76 億元）によって 2023 年 4 月に建設請負の中鋼設備有限公司から提訴さ

[47]「“天下第一村”華西村疑陥資金危機　大批村民冒雨取錢保本」『香港 01』(www.hk01.com)2021 年 02 月 27 日掲載。

れている。プロジェクトを受け継いだ敬業鋼鉄有限公司は年産 200 万トンの 3800㎜ 厚板ラインを完成させ、高層ビル用構造鋼材や船舶・海洋建設用構造鋼材、耐摩耗鋼板など付加

図９　華西集団の解体を巡る所有関係図



注）主要企業のみ。太線内が華西集団関係の企業。網掛は市や鎮、国有企業
出所）「愛企査」ほか、各種企業情報より作成。

価値の高い鋼材を生産しているから、技術的な壁に直面したのではなく、資金繰り悪化のなかで起死回生の巨額投資が頓挫したということであろう。

さらに取り付け騒ぎ後の 2021 年後半には、多角経営部門からも幾つかの企業が分離された。7 月から 12 月にかけて今度は江陰市系の国有ファンド傘下の投資事業有限責任組合と共同で新会社の江蘇華西産業集団有限公司を設立し（江陰市側が 28 億元（80%）、華西集団が 7 億元（20%）を現金で出資）、海洋エンジニアリングの江蘇華西村海洋工程服務有限公司や農村少額金融の江陰市華西農村小額貸款有限公司、商品取引の江陰華西村商品合約交易中心有限公司などを順次移管して「国有化」している。

そして、2022 年 4 月には、江蘇華西村股份有限公司の株式の 11.24%が華士鎮系の江陰市凝秀建設投資発展有限公司に 5.58 億元で売却された。

こうして次々と資産の移管や売却が進められたあと、遂に華西集団そのものが「国有化」されることになった。2023 年 7 月から 9 月にかけて、村民委員会が所有する華西集団の持分の 80%を別の江陰市系国有ファンド傘下の投資事業有限責任組合に譲渡する手続きが進められている。その譲渡価格こそが「20 円」とセンセーショナルに報じられた 1 元であった[48]。

華西集団は 2018 年の時点で既に CP の発行が不可能な状態に陥っており、村民から「出資」を募りつつ（賞与の強制出資は 2017 年から停止）、製鉄所の移転新設や光半導体会社の買収によって起死回生の策を探っていたが、2020 年半ばに至ってそれにもいよいよ行き詰まり、清算の過程に入ったことが窺える。

おわりに

華西村の共同富裕とは何であったのか。

集団所有に拘りながら 2023 年に「破産」するに至った華西村の発展史を振り返ると、そこには三度の大きな転換点があったことがわかる。

一度目は華西村が村外労働者を本格的に雇用し始めた 1990 年代の前半であった。当時は 1992 年に始まった社会主義市場経済への移行によって農民の出稼ぎ労働が中国全土で増加し始めた時期であったが、華西村は村外からの労働者を集団所有制の華西集団の現場作業員として多用することよって村民の間で邸宅や乗用車を共有するというかつてない豊かさを手に入れた。集団所有制を維持して近代化や共同富裕を実現するという点においては前後で連続性が保たれてはいるものの、それまでのように村民の協同労働が生み出す価値によって実現するのではなく、村外から雇用した労働者が生み出す剰余価値に主に依拠して実現するというマルクス主義的には何とも正当性が疑わしい転換であった。村の政治ブランドやリーダーの抜け目のなさが有利に作用したことを考慮に入れたとしても、よそ者である村外労働者を踏み台にして実現した村民限定の共同富裕という疑念を拭い去ることはできない。ただ、大家族の伝統というものはそういうものなのかも知れない。

二度目はその村外労働者の主な供給源でもあった周辺村を華西村に加入させた 2001 年～

[48] 江蘇華西村股份有限公司「詳式権益変動報告書」2023 年 7 月。

2006 年であった。共同富裕の支え手であったよそ者の村外労働者を新村民として迎え入れたことによって、華西村は狭隘な村域を打破して将来にわたっての広大な発展空間を手に入れることになった。しかし、大量の支え手が同時に受け手にも回ったことによって、華西村は共同富裕のコストを再び村民の協同労働によって、しかも膨れ上がった規模で用立てる必要に迫られることになった。「三重の世界」などと揶揄されつつも、3 万 7000 人という規模で長期的な共同富裕を目指す道を歩み出したという点においてはマルクス主義的には真っ当な転換であった。

おそらく周辺村を加入させた当初は、株式化によって拡張した繊維部門や南北 2 カ所に建設した銑鋼一貫製鉄所によって、それは十分に可能であるという判断があったのであろう。しかし、大黒柱の鉄鋼部門が空前の鉄鋼投資ブームに巻き込まれ、政府が技術的なハードルを引き上げたことによって計算に狂いが生じた。そこからはさして取り柄もない 3 万 7000 人の村民を抱えて多角経営の森をさまようことになり、やがては多数の村民を低収益の製造ラインに立たせたまま、利益の大半を村外での投資や金融で稼ぐという歪な共同富裕社会を形成する結果となった。華西村の三度目の転換であり、よそ者を踏み台にした共同富裕への再びの回帰であった。

そして、それに行き詰まりが生じ、起死回生をかけた新鋭製鉄所の建設も中断せざるを得なくなった時、華西村の共同富裕が「破産」の日を迎えることになった訳である。光半導体への投資も起死回生の収益源として十分に発展できないまま、最終的に 2025 年 7 月に売却処分されている。

華西村の近代化と共同富裕は、仮に中国が資本主義であり、華西集団がその下での同族企業であったならば実現できなかったのかもしれないが、実現できていれば逆に持続できていた可能性もある。資本主義下の同族企業であれば、労働者のリストラを伴う大胆な事業再編を行うことも可能であったろうし、そもそも将来にわたる共同富裕のコストを覚悟してまで周辺村を加入させる必要もなかったからである。しかし、中国は市場化したとはいえ「社会主義」を公式の体制に掲げる国であった。また、華西村も「社会主義」を存在理由とする村であった。華西村の社会主義観は「人民の幸福がすなわち社会主義」という極めて単純なものである。「幸福」とは「生活が豊かで、心が楽しく、健康なこと」であって、それぞれを「上の階に絨毯を敷き、下の階には床板を敷いて、ひねれば水が出て、雨の日に村で傘が要らないこと」（生活）や、「家庭が和睦で、近所とは睦まじく、幹部と大衆が団結し、上下が一致団結していること」（心）、「日々栄養に満ち足り、集団で年寄りの世話をし、子供を大切に育て、余暇の文化・スポーツ活動が色々あること」（健康）と要約している（江陰市人民政府接待站 1995:6-7）。呉仁宝はこれを「中国的特色のある社会主義の華西化」などと称していたが、同時に「人ひとりが豊かになっても豊かになったとは言わない。集団が豊かになってこそ豊かになったと言える。村ひとつ豊かになっただけでは豊かになったと

は言わない。全国が豊かになってこそ豊かになったと言える」とも強調し[49]、2001 年から進めた周辺村の加入を 1990 年代に行った人材育成支援や近代化モデルの移植実験（寧夏回族自治区、黒竜江省に「華西村」を移植）に継ぐ「共同で豊かになる道の新たな一歩」と自負していた[50]。村民の集団所有下で村の繁栄を実現するという素朴な社会主義観が村外労働者の多用を無邪気にも可能にし、華西村を近代化に導くことになったが、同時に周辺村や遅れた地域を置き去りにはできないというもうひとつの社会主義観が華西村を政治的な自縄自縛に追い込むことになった。華西村は、膨大な使用人を身内として迎え入れながらも、立脚し得る堅実な産業を失ったことによって、協同労働によってひろく共同富裕を創出する社会の建設には辿り着けなかったのである。

華西集団は 2023 年夏までに事実上「破産」し、グループは「解体」された。しかし、華西集団は完全に「解体」されたのかと言えばそうではない。華西集団の主要企業のうち民間に売却されたのは省外の「北鋼」のみで、資産の多くは地元政府の国有ファンドの管理下に置かれている。出資比率が 20%に低下したとはいえ、華西集団も、華西産業集団も、新華西鋼鉄集団も、法定代表者は二代目リーダーの呉協恩のままである。再建の芽が完全に摘み取られた訳ではない。中国の共産党政権は既に言及したように 2017 年から 5 年の計画で集団所有制資産の再編成を開始し、資産再評価と資本金の確定、社員の再確認、収益性資産の株式化を進めさせ、各村に株式制経済合作社（股份経済合作社）を立ち上げさせた。華西新市村においては 2021 年 10 月 10 日に、その他の周辺村においては 2020 年 6 月 20 日に株式制経済合作社の設立が完了している[51]。現状では華西集団も華西産業集団も新華西鋼鉄集団も村民委員会が 20%を所有しており、新設の株式制経済合作社の所有にはなっていないが、おそらくは国有ファンドのもとでの整理整頓を経たあと、縮小した持分を株式制経済合作社に移す計画なのであろう。その時、華西村の共同富裕はどのような姿になっているのか。未だ謎の多い 2018 年後半以降の華西集団の状況を含めて調査を継続することにしたい。

---

[49] 初出は不明であるが、1993 年秋に中央組織部が開催した座談会でも同様の考えを表明している(『人民日報』2000 年 7 月 18 日付「全国富了才算富――東部労模和先進工作者義務培訓西部幹部紀事」)

[50] 『農民日報』2008 年 11 月 25 日付「天下第一村:“三農”変“三化” ――華西村党委老書記、党村企総弁主任呉仁宝訪談」。

[51] 余葵(2021)によれば、華西新市村株式制経済合作社は社員 2477 名、経営性純資産 29.5 億元(集団株 97.6%、社員株 2.39%)で設立された。一方、加入 13 か村の株式制経済合作社の資産総額は 5500 万元前後で、主に賃貸不動産で構成され、各村の経営性純資産を株式化し、集団株を設置せず、社員株のみで構成しているという。

参考文献

胡展奮・楊江(2013a)「十問“呉氏家族世襲制”」『新民周刊』2013 年第 12 期

胡展奮・楊江(2013b)「接班人挑得起重担嗎？」『新民周刊』2013 年第 12 期

江陰市人民政府接待站(1995)『江蘇省江陰市華士鎮華西村情況彙報』江陰市人民政府接待站

李春平・徐偉(2017)「揭秘華西村――3 年発債近百億,正進行顛覆式改革」『商業文化』2017 年第 10 期

林子(2018)「改革 40 年:従“窮怕了”到“天下第一”――華西村改革掘金記」『協商論壇』2018 年第5期

竜婧(2010)「華西村建中国第八高楼」『光彩』2010 年第2期

毛徳彦編著(2005)『天下第一村紀事』中国農業出版社

瀋玎・孫炯(2011)「天下第一村的三重世界」『南都周刊』2011 年第 45 期

省委省政府専題調研組(2009)「新農村建設的一面光輝旗幟――華西村改革開放 30 年調査」『群衆』2009 年第 6 期

余葵(2021)「関于農村集体経済組織開展経営活働案例分析与思考」『農村経営管理』2021 年第 9 期

余信紅(1996)「華西村社会保障情況調査」『農村経済与技術』1996 年第 3 期

張卓君(2021)「社会団結路径的転型――基于華西村的田野調査」『社会発展研究』2021 年第 1 期

張素珍(2013)「華西村再転身」『民生周刊』2013 年 2 月 11 日

中共無錫市委政策研究室(1996)「華西村経済社会発展調査」『中国農村経済』1996 年第 3 期

『中国発展観察』雑誌社調研組(2019)「華西村――“天下第一村”的共富実践」『中国発展観察』2019 年第 15 期

周怡(2006)『中国第一村――華西村転型経済中的後集体主義』牛津大学出版社

朱道才・張秀栄・董青青編著(2011)『中国十大名村的故事』中国財政経済出版社

熊谷重勝(2005)「中国・華西村の工場を見学して」『社会主義』第 520 号

小林史憲(2014)『テレビに映る中国の97％は嘘である』講談社

谷川尚哉(2008)「中国江蘇省江陰市訪問記②」『地理教育研究会会報』第 432 号

谷川尚哉(2009)「中国江蘇省江陰市訪問記③」『地理教育研究会会報』第 433 号

莫邦富(2017)「中国で農村の模範だった「金持ち村」はなぜ凋落したのか」ダイヤモンド・オンライン(https://diamond.jp/articles/-/124652)2017 年 4 月 13 日掲載

細沼藹芳(2013)「中国郷鎮企業の成長戦略について――華西村成長戦略の事例を中心に」『実践経営』第 50 号

真野俊樹(2012)「中国の医療と華西村」『共済総研レポート』No.122